

【所属名 市民部福祉事務所】

【会議名 糸魚川市介護保険運営協議会】

日	令和2年9月3日(木)	時間	14:00 ~ 15:30	場所	糸魚川市民会館3階会議室
件名	令和2年度 第2回 糸魚川市介護保険運営協議会(糸魚川市地域密着型サービス運営委員会)				
出席者	<p>【委員】出席委員11人(欠席委員 竹内委員 大縫委員 齋藤委員) 田原秀夫委員(会長) 横澤陽子委員(副会長) 梅田慶一委員 金子裕美子委員 不破野礼子委員 秋山哲委員 楠田法宣委員 横土純委員 金子恭治委員 金子正樹委員 渡邊和紀委員</p> <p>【事務局】7人 市民部 渡邊部長 福祉事務所 嶋田所長 塚田次長 介護保険係 須澤係長 寺崎主事 高齢係 加藤主査 佐藤主任保健師</p> <p>【関係者】1人 プライムテック株式会社 友田さん</p>				

会議要旨

1 開会(14:00)	※傍聴者なし
事務局	欠席委員の連絡。本協議会は傍聴可能で公開となっていること、議事は後日市のホームページ上で公開されることを説明。 会議次第「4 報告・協議事項」の冒頭まで進行をつとめる旨を述べる。
2 市民部長あいさつ	
事務局	委員の皆様におかれましては、大変ご多用中、また暑い中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。市民会館の隣に、アメダスという気温を計る装置がありますが、12時で35度を超えております。その中コロナウイルス感染症対策で皆さん大変ご苦勞をされていると思いますが、今週の月曜日に上越市の社会福祉施設で陽性者が出たということでもあります。ただ、抗原検査で陽性、PCR検査で陰性ということですので、もしかしたら擬陽性型だったかも分かりませんが、その後、濃厚接触者、また接触されたと思われる方の68名に検査をして、1人だけは現在まだ結果が出ておりませんが、その方以外陰性ということで一安心ということでもあります。こうした中、昨日、福祉施設を対象に、保健所の方から講師をお招きしまして、コロナウイルス感染症対策についての研修会を開きまし

た。感染症の予防、消毒のポイント、もし感染者が出た時どうすればいいだろうといったことで、皆さんから理解を深めていただいたところでもあります。糸魚川市の場合、9月2日現在ですが、PCR検査を実施したのが99件、そのうち、陽性者1人、陽性率は1.0%ということで、どうにか抑えられているのかなと思っておりますが、今後もぜひ感染対策に皆さんからご尽力をいただきたいというように思います。今日は、今年の2月から3月に実施しました、在宅介護実態調査、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の集計結果について主なテーマになります。報告は主だった項目に絞られますが、全体を通していろいろな感想、ご意見等いただきながら、計画づくりを進めて参りたいと思っております。どうぞよろしくお願ひしたいことを申し上げまして、開会のごあいさつとさせていただきます。

3 会長あいさつ

会 長 こんにちは。コロナウイルス感染防止対策の真っ只中、また今日は、9月にもかかわらず今年一番のような暑さの中、委員の皆様には運営協議会にご参加をいただきましてありがとうございます。前回の会議におきましては、第7期計画の実態・現状、また課題等を皆さんからご論議をいただいたところです。本日の2回目は、アンケートの結果がたくさん項目で出されております。それを皆さんからご覧をいただきまして、8期計画についての意見交換をお願いいたしたいと思います。以前の会議では、糸魚川市にある施設の廃止状況も報告がありました。そのことについて委員の皆様からも廃止されることに伴う影響ということを懸念される意見も出されております。糸魚川市においては、人口減少の中で高齢化率がさらに上昇していくという中において、今後も介護保険サービスのニーズがさらに高まってくるものと思われます。第8期計画においては、そういう現状や、また、国の指針を踏まえていかなければいけませんけれども、市内の皆様の声も取り上げていただくという皆さん論議の中で、そういう計画にして参りたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

4 報告・協議事項

(1) 糸魚川市介護保険運営協議会

① 第8期計画策定に向けたアンケート調査結果について

(資料No.1-①、1-②、1-③「在宅介護実態調査結果報告書」)

(資料No.2「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果報告書」)

事務局 資料No.1-①、1-②、1-③により、説明。

委 員 市内在住の要介護・要支援認定の認定者数はどれくらいいますか。

事務局 認定者数につきましては、直近の令和2年4月1日現在で、3,099人いらっしゃいます。

会 長 3,099人というのは、例えば施設入所者は除く人が対象者になりますね。そうすると入所者は今の3,000人の中には入っているのでしょうか。

事務局 施設入所者は除きますので、全体の認定者で3,099人となっております。施設

の利用人数でいきますと、700人ぐらいいらっしゃるかと思うので、そこから700人ぐらいを差し引いて、それで無作為に抽出というかたちになります。

会 長 差引くと概算で2,400人くらいがアンケート調査の対象で、そのうち1,000人を抽出して回答いただいたのが665人ということだそうです。

委 員 70ページのところで、前回のアンケート結果をあまり見ていませんが、今回、この資料見てとてもショックだったのは、単身世帯のご家庭でサービスを未利用であるというパーセンテージが要介護3以上であっても、とても大きな数字が出ているのでびっくりしました。要支援1、2ですと、まだあまりサービスを使わない人がいるというのは分かりますが、要介護3以上で、しかも単身世帯の未利用が47.8%、約半分の人が何のサービスも使ってないというふうな結果はちょっと納得できないというか、前回の資料を見てこなくて申し訳ありませんが、前回の結果はこのようでしたか。何か不思議に私自身感じます。

会 長 事務局、前回のアンケート結果を持ってきていますか。それと、この利用しているサービスの例示がないかもしれないですが、日常支援事業や介護サービスにならないようなのをお願いしているなどのそういう分析はしてはいませんか。確かに半分ぐらい何も利用していないというのは大変だと思いますし、我慢して利用しないにしても、少し大変な状態でないかなという懸念はありますね。

事 務 局 前回の調査結果の方を確認しますと、今の同じ項目の単身世帯の要介護3以上で未利用の割合は、68.5%。同様に夫婦のみ世帯及び要介護3以上の未利用は、今回でいうと44.4%、そこに相当する数字が、前回では68.4%。その他世帯におきましては、今回38.1%のところ、前回は69.1%となっています。ただこの辺は詳細の分析と、その回答のあった方の数があくまで無作為ですので、極端でいうと前回100人だったところが、今回でいうと3人といったそういった傾向があり、こういった割合も極端な数字が出てくる可能性はあります。

委 員 ありがとうございます。私は自分自身要介護3の人間を抱える身としては、未利用でやっていくことは、ちょっと信じられない思いがしたものですから質問させていただきました。

会 長 前回との比較の数値で、数字的には少なくなってきている、これが改善なのかどうか実態はわかりませんが、前回よりは数字は減っている、利用している方が多くなっているという状況の説明がありました。

委 員 続けてなんですけど、今回、サービス利用の組み合わせと施設入所の検討との関係性も見たいということで、これは想像で極端な話ですが、日頃のサービスをたくさん利用していれば、在宅介護も幾分負担が軽くて、すぐ施設入所ということを考えないのではないのでしょうか。そうしたところ、資料No.1—②の12ページのところですが、サービス利用の組み合わせと施設検討の状況のところ、これも同じく要介護3以上ですが、検討中、検討していない、申請済みという表が載っております。申請済みと全く検討していないというところ

で、検討中の項目が出ないのが、訪問系を使っている方が多いようです。特に認知症の方を抱えている方は、申請済みの方が圧倒的に多いですが、これをどういうふうに分析されていらっしゃるのかお聞きしたいです。つまり、訪問系ということはいわゆるホームヘルパーさんに入っていて在宅介護していて、それで大変だから施設入所を申し込みましたという理由であれば、なぜデイサービス、ショートステイの利用の方にいかないのだろうかという、ものすごく素朴な疑問があります。その訪問系のみの方の特に認知症の重い方を抱えている方の申請済みというパーセンテージがものすごく多いので、ここがなぜなのかということも素朴な疑問です。もし、何かデータから見えてくるものがあつたらお聞かせいただきたいです。

事務局 こちらの数字につきましても、表の左側、訪問系のみの下にn値が9と書いてあります。下の図表1-12の訪問系のみを見ていただくと、n値が3となっておりますので、3人おられていて、1人、2人という感じで、極端な数字が出やすい傾向はあるのかなと思います。確かに訪問系を使っていて、なぜ訪問系だけで留まってまっているのか、そういった分析は必要になってくると思いますし、訪問系を使っていて認知症の対応に苦慮されている方が多い傾向で、そのため、施設の申請の方もすぐ検討中ではなくて、申請済みとなって数字に出る傾向にあるのかなというふうには感じているところであります。

委員 すいません、私このnの方の数字はちょっと見ないで申し訳なく思います。ここが余りにもパーセンテージが高かったものですからびっくりしました。

事務局 ちなみに、例えば、前回調査ですとこの図表の1の12の一番下の表に値するところが、訪問系のみは前回n値が11になっております。それで検討していない方の割合が、54.5%。検討中という方が36.4%。申請の方が90%。確かにn値が前回多かったので、検討中という方も若干出てきた結果だったのかなと思います。

委員 ありがとうございます。

会長 n値というのはこの項目に回答した人の数ということで、3人いて、一番下でいうと、1人は検討しないけど、2人が申請しているということで、パーセンテージとすれば、下の表と比べると大きくなりますけども、全体数が少なかったからということだと思いますが、今調査しない人たちも、この割合でいくのか、また違うのかはちょっとここでは説明できないようです。

事務局 資料No. 2より、説明。

委員 前回の資料のことばかりをお聞きして恐縮ですが、65ページの地域包括支援センターの認知度から、私が思っていたよりも知らない方のパーセンテージが依然として高いものですから、前回もショックだったような気がしますが、いかがなものでしょうか。

事務局 前回の地域包括支援センターの認知度は、知っていると回答された方が50.7%

ですので、今回は、1.7ポイント前回より下がっている状態です。知っている
と回答されている数については、まだちょっと十分な分析ができていないの
で、皆様からの何かご意見をいただければと思います。

会 長 知らない方、無回答の方の前回の数値はありますか。
事務局 知らないと回答されている方は、41.9%で今回とほぼ変わらない値となっており
ます。無回答と回答されている方については、7.5%です。

会 長 全体を合わせ1,400ということで、大体前回並みに近いのかなというのはあり
ますが、期待としてはもう少し知ってもらいたいという気持ちの関係者にある
のだと思います。

委 員 皆さん運動に気を付けることや、健康面で関心があって介護予防に取り組んで
くださっております。しかし、何か心配なことがあったときにどこに相談して
いいかわからないということは、とても残念なこと、心配なことです。気楽に
相談に行ける場がたくさんあるということは、広報する側としては、たくさん
していच्छるつもりですけれども、私どもにも大事な地域包括支援センタ
ーですから、ここがとても大事な要です。元気なうちから何かあった時も大事
な相談窓口ですってということも、もっともっと皆さんに知っていただけたら、
1人で抱え込んでどうしたらいいのだろうと悩む時期をもっと短くできれば、
次への一歩を早く出せるのではないかという気がしておりますので、よろしく
おねがいします。

副 会 長 実際、地域包括支援センターに関わったり、お話を聞いたりしていても、実際
自分の身内にそういうことが起きた場合に、どうしていいかわからないという
人が結構いるみたいで、やはり周囲のアドバイスとかが大事なのかなというふ
うに感じておりますが、実際は慌ててしまい、自分でもいろんな話は聞いてい
ても、実際のこと地域包括支援センターに電話すればいろんな相談をしてくれ
るということとに繋がらなかったってということがあります。

会 長 事務局何かありますか。

事務局 このアンケートを前回の結果を踏まえまして、今ほど委員さんがご指摘の通
り、これが6割7割という数値になってないというのは、私どももある意味シ
ョックな数字であるかと思っております。地域包括支援センターはかなり地域
において活動はされていますが、まだまだ浸透しないというのがこのアンケー
ト結果に表れておりますので、この数字につきましては包括支援センターと共
有しまして、今後の展開について生かしていきたいと思っております。

会 長 このあたりが、先ほど在宅のアンケートのところで利用者の人数が少ないとい
うことに繋がっている可能性もありますので、そのあたりを分析して、また計
画の中に必要であれば盛り込んでいかなきゃいけない項目かと思えます。

—休憩 (15:30~15:35) —

事務局 1点追加で説明をさせていただきたい点があります。資料にはないですがロコ

モ 25 の点について説明させていただいたうえで、あらためて結果をお伝えさせていただきます。資料にありませんが、ロコモ 25 チェックシートというのをニーズ調査の中でさせていただいております。運動機能症候群といいまして、進行すると介護が必要になるリスクが高くなります。この点数が高いほど、移動機能が低下した状態となりますので、介護や日常生活自立に不自由なことが生じる可能性が高いということになります。7期の調査では、12.8点となっていて、今回の調査では13.8点となっています。この数字が上がれば上がるほど、介護の状態が高くなるということで、前回から少し結果が悪くなっています。

委 員 員 ロコモとはなんですか。

事 務 局 ロコモ調査については、運動器の障害があるかどうか、移動機能があるというところを調査させていただいております。25項目の日常生活についても質問させていただいて、その中で、できる、できない、或いは少しできる等、5段階に分けてご回答いただいております。この点数が多いと、介護や日常生活、或いは歩行のほうに支障をきたしているという状態になります。

会 長 今説明いただいたのは、今までの会議の中で、ロコモの調査も行いますという説明があったと思うのですが、その結果を、口頭で説明をさせていただいたということで、今後文書にして配布される予定はありますか。

事 務 局 今回の調査結果の配布は間に合わなかったですけれども、後日、改めて配布させていただければと思います。

会 長 そういうことで、また配布の時に今と同じ説明になるかもしれませんが、説明を再度お願いします。

(2) 糸魚川市地域密着型サービス運営委員会

② 地域密着型サービス事業所の開設について（資料No.3）

事 務 局 資料No.3より、説明。

<②について、質疑なし>

(3) 意見交換

委 員 員 2点、ここでちょっと言わせていただきたいことがあります。1点は、皆さんが介護保険外のサービスで、移送サービスを使っているらっしゃる、それはもちろん民間の移送サービスの会社もありますが、ぐりーんバスケットを利用されている方も多いかと思います。ぐりーんバスケットとしてはタクシー会社に見習って、運転に関しては75歳で定年を設けております。やっぱり大事な人様を乗せるということで、万が一、事故があってはならないということで、運転能力がまだ大丈夫なのが75歳ということでやっているわけですが、今75歳の定年を迎える人がどんどん増えて、けれども新しい運転ボランティアが入ってこない状況で、非常に利用希望者が多いですが、現実的には運営がこの先、あと何年もつかという厳しい状況になっております。ですからこれから糸魚川市

のいろんなサービスを考えていく中で、公共交通機関が非常に乏しいというか、なかなかバスを利用してとは言っても、時間も本数もないですし、それから自宅からすぐ病院までという経路にはバスは残念ながらないという意見があります。これからますますサービスを希望する方は増えるばかりなのに、なかなかその要望に応えられない現実があるってことを、今日この委員の皆さんにも知っていただきたくて一つお話させていただきました。どうしたらこの移送サービス、運転ボランティアの方が、増えてくださるのか頭の痛いことです。それからもう1点、コロナウイルス感染症で、私たちは大変自粛生活を強いられています。感染予防のために、あまり人と会わない、それから買い物なども最低限の時間でさっさと済ませて一目散に帰るような生活をずっとしておりますが、最近とっても興味深いデータを目にしました。介護殺人なんてあんまり穏やかではない話題ですが、残念ながらこれだけ介護保険が浸透してきた中でも、介護殺人がこの日本で2週間に1度起きております。今までは、圧倒的に男性が殺害の加害者になる事例が多かったんですね。先ほどのデータにもありましたが、介護者は女性が7割、男性が3割と数字が出ておりますが、今までは殺人事件の加害者の7割が男性でした。ところが今年になって、コロナウイルス感染症によって人と会うことが制限されるようになり、1月からこの7月末まで15件の殺人事件が起きていて、そのうちの9人が女性の加害者という結果なんですね。全体の中で、女性が7割の介護者ですから、殺人事件を起こした犯人がおおよそ7割女性っていうのは、ある意味数字としては当たり前なのかもしれませんが、今まで、なぜ女性の加害者が少なくて男性が多いのかという分析のときに、男性は1人で抱え込んで頑張ってしまう、それから、気楽に人に愚痴をこぼせない、本当に1人で頑張りが過ぎて疲れ果てて、配偶者、或いは独身の男性が親を見ていて、その親を殺害してしまうという事例が多かったのですが、今年に入って女性が本当に増えております。その女性の年齢も、60代後半から70代です。大方は配偶者を殺害しておりますが、特に気の毒だったのが、26歳の女性が60歳の母親を殺しております。そこで皆さん異口同音に言う言葉が、「介護に疲れた」という言葉です。何を私が今長々とお話したかっていうと、女性は私も含めて非常におしゃべりです。いろんなところで会うと立ち話で話が弾んだりしますが、そうやって人と交わって話をすることで、介護の辛さを発散して、頑張ってやってきたという経緯があって、何とか最後の最悪の事態を踏みとどまっていたのではないかと思います。このコロナウイルス感染症のせいで人と交わることが少なくなって、ストレスの発散がもっとできなくなってしまったことも大きな要因なんじゃないかなと思います。それでこの資料の中にも配偶者が望むサービスみたいなページがありました。たくさんの資料で何ページかちょっと私もわかりませんが、そんな中で介護者同士の集まりとか、リフレッシュが大事みたいなことが書いてあったと思います。私は認知症に関わることをやってきましたが、認知症の本人の思いを大事にすることは、これはもう本当に大事にしていきたいことで

すが、それと車の両輪のごとく、介護者にももっともっと手厚く考えていただければと思います。長々すみません。以上です。

会 長 今ほど委員さんから深刻な事例を2つ挙げていただきました。どちらも介護に関わることで、このまま放置しておくことはできないと思っております。計画の中で、どのような形になるか、入れていかなきゃいけない問題だと思っております。まず一つ目のぐりんバスケットについては、糸魚川においても大切な輸送手段を担っていただいております。運営としては、やはり事故を起こさないようにという人事管理も大変大切ですが、人材がないということは大きな課題だということを知っております。特に糸魚川においては、今のアンケートにもありましたが一層の課題だということが多く出ておりますので、ぐりんバスケットのような、移送サービスをする事業所、そういう方への支援というのが必要なのかなというのを感じたところであります。またコロナウイルス感染症については、理由がたまたまそういうことではあるかもしれませんが、コロナウイルス感染症だけではなくていろんな家庭環境、個人の性格上の問題もあるということは、当然のことかと思っておりますが、やはり、これが引き金になっているということはありますので、そういうことも、掘り下げて考えていかなきゃいけない課題だと思っております。自殺だけでなく、殺人・犯罪のようなことがないような社会にしていかなきゃいけないと思っております。

ほかに委員の皆様から、何かございませんでしょうか。よろしいですか。

今日は台風の南風のひどい日ですが、皆さんの生活におきましても、火災予防もお願いしたいですし、熱中症についても、9月だから安心ではなくて、特に私たちも含めて高齢者の方に声かけを行い、自分たちは大丈夫という過信のないような、生活をしていただければと思います。コロナウイルス感染症とあわせて熱中症にも注意していきましょう。よろしく申し上げます。

(4) その他(次回日程等)

事務局 次回は10月29日(木)14時からの予定です。

委 員 コロナ禍ですが、こういった運営協議会みたいな会議は市の方で何%ぐらい回復してきたのか、分かる範囲でいいので教えていただきたいです。結構私の会も、今日まで中止になったり延期になっていたものですから、今3回目が決まりましたけれども、今現在、市でいろんなこういった会議の開催のパーセンテージみたいなものがわかりましたら教えてください。

事務局 数字はわかりませんが、基本的には市民の方だけの会議については、ほぼ100%実施しております。その一方で、例えば東京からの方がいらっしゃる場合はやめておこうといったこともあり、そのような状況です。

会 長 私が委員となっている会議が何件かありますが、大体開催してはおりますが、文書によってやりとりして議題を承認いただくという方法も若干あります。全部ではありませんが、どちらかの方法でやっているということで中止は今までなく、私の少ない参加の中では行っております。方法については今まで通りで

はなくて、感染防止、或いは時間を短くするなど、そういう対応をとりながら委員の皆さんから参加いただいているという状況です。よろしくお願いします。

5 閉会（福祉事務所長あいさつ）

事務局 皆様お忙しい中、また暑い中、午後2時から約1時間半にわたりまして活発なる意見交換をいただき、ありがとうございました。コロナ禍ではありますが、次期第8期計画策定に関して皆様方から引き続きご協力をいただきたい旨を申し上げまして、閉会のごあいさつとさせていただきます。本日はありがとうございました。